

# I 令和2年度 千葉県立千葉高等学校 学校目標及び自己評価

アンケートの回答率は、四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	学校評価アンケートにおける該当質問項目 (職は職員アンケート、保は保護者アンケート、生は生徒アンケート)			アンケート回答率			自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
				肯定的回答	否定的回答	わからない等	肯定的回答	否定的回答	わからない等		
学校経営	校内組織をより活性化するとともに、教育環境の整備に努め、機能性や創意工夫に富む学校経営にあたる。	①分掌等の業務内容を精査し、効率的で機動力的な学校運営を行う。	①職員アンケートの結果及び実施状況	職 ①	分掌等の業務内容を精査し、効率的で機動力的な学校運営を行う。	81.4%	15.3%	3.4%	① 各分掌の業務が多様化したため、分掌において業務内容の見直しと担当業務の再考を行った。その結果、肯定的回答率が昨年度より13.0ポイント増加した。	① 今年度行った業務内容と業務分担の見直しを一層進め、効率的かつ組織的に業務が行われるように取り組む。 ② 中高一貫教育推進委員会で継続的に検討し、より一層の目に見える形での取り組みを行う。また保護者には、そのような取り組みが行われていることを分かってもらえるよう、積極的に情報提供をしていく。 ③ 施設・設備についての改修等について県へ要望するとともに、実施可能な改善に漸次取り組み、より安全・安心な状態にするよう努力する。 ④ 今後も多くの場面で、本校の教育目標や教育活動を発信していく。また、ホームページを活用し、学校行事等の案内や緊急時における対応を迅速に行い、情報が的確に伝わるように、内容や運用を更に改善していく。	
				生 ②	中高一貫教育の質の向上に努め、具体的な中高の連携を進める。	64.4%	32.2%	3.4%			
		保 ③	中高一貫の特色を十分生かした教育活動を行っている。	②職員アンケートの結果及び実施状況	生 ③	中高一貫の特色を十分生かした教育活動を行っている。	52.8%	46.2%	1.0%		② 中高一貫教育推進委員会を中心として、中高連携を進めている。今年度は体育大会の合同開催や高校本務職員による中学授業の実施(通年)などが行われた。その結果、職員の肯定的回答率は昨年度に比べ27.5ポイントも上昇し、生徒の肯定的回答率も4.3ポイント上昇した。しかし、保護者の肯定的回答率は昨年度よりも1.8ポイント下降した。
					保 ④	中高一貫の特色を十分生かした教育活動を行っている。	46.2%	26.0%	27.9%		
		生 ⑤	③施設・設備等の定期的点検を徹底し、安全で安心な教育環境を整える。	③職員、生徒、保護者によるアンケートの結果及び定期点検の実施状況	職 ⑤	施設・設備等の定期的点検を徹底し、安全で安心な教育環境を整える。	50.9%	47.5%	1.7%		③ 施設・設備に関する職員・生徒の肯定的回答率は、昨年度と比べ職員は12.3ポイント、生徒では6.5ポイント上昇した。しかしながら肯定的回答率は50%前後であり、トイレや雨漏りの改修に対する要望が根強い。
					生 ⑥	学校の校舎や施設は、生徒の安全に配慮し、また衛生的に管理されており教育環境は快適である。	47.5%	52.5%	0.0%		
		保 ⑦	④家庭・地域へ本校の教育目標・教育活動を発信し、より開かれた信頼される学校づくりを推進する。	④保護者アンケート、地域懇談会での意見及びホームページの掲載内容と更新状況	職 ⑦	家庭・地域へ本校の教育目標・教育活動を発信し、より開かれた信頼される学校づくりを推進する。	72.9%	25.4%	1.7%		④ 本校の教育目標・重点目標は、PTA総会や地域懇談会など、機会あるごとに積極的に説明しており、保護者からは昨年度よりも0.9ポイント上昇し93.9%の肯定的回答をいただいた。今年度は感染症対応の影響もあり、ホームページの更新回数は昨年度より15回増え40回となった。しかし保護者からは、イレギュラー時の学校の対応を、もう少し明確かつ迅速にアナウンスして欲しいとの要望がある。
					生 ⑧	私は、学校の教育目標を知っている。	77.0%	22.8%	0.1%		
					保 ⑧	学校の教育目標・重点目標に共感できる。	93.9%	2.8%	3.3%		
					保 ⑨	学校は、保護者・地域との連携を密にして、開かれた学校づくりに努めている。	65.7%	19.7%	14.5%		
学習指導	生徒の主体的な学習を育み、基礎学力の定着を図りつつ内容濃く水準の高い授業を展開する。	①思考力・判断力・表現力を育て、深い学びのある授業を実践する。	①職員、生徒、保護者による授業評価アンケートの結果	職 ⑤	思考力・判断力・表現力を育て、深い学びのある授業を実践する。	93.2%	5.1%	1.7%	① 授業内容に関わるアンケートでは、職員・生徒・保護者ともに肯定的回答率がたいへん高い。特に生徒の肯定的回答率は昨年度に比べ、理解度の向上については0.2ポイント、思考力の向上については3.2ポイント上昇した。これは「重厚な教養主義」を追求し、深い学びのある授業を目指して教材研究を行っている職員の努力が認められた結果であると考えられる。	① 今年度同様、考える力を育てることに関する指導力を高め、実践する。また授業アンケートを活用して授業方法を内省し、より理解度を高められる指導を進める。さらに、生徒が理解した実感を得られるような評価の工夫をする。 ② 保護者に対して、より積極的に指導目標を説明していく必要がある。授業進度に関しては、授業の難易度及び生徒の理解度を鑑みながら、さらに改善していく。 ③ さらなる授業改善のため、公開授業や授業練習の日、教材研究や教科指導に係る研修会を充実させる。また、授業アンケートを一層活用する。	
				生 ⑥	先生は、授業を工夫し、生徒の理解度を高めようとしている。	84.1%	15.7%	0.2%			
				生 ⑦	先生は、知識に偏ることなく思考を深める機会を多く取り入れ、考える力を高めようとする授業をしている。	89.1%	10.8%	0.1%			
				保 ⑧	私の子供は、授業を通して考える力が身に付いている。	86.6%	9.7%	3.7%			
		保 ⑨	②生徒・家庭に対して指導目標を明確にし、個に応じた学習指導の一層の充実を図る。	②職員、生徒、保護者による授業評価アンケートの結果	職 ⑨	生徒・家庭に対して指導目標を明確にし、個に応じた学習指導の一層の充実を図る。	86.4%	13.6%	0.0%		② 職員の肯定的回答率は昨年度と比較して0.5ポイント上昇した。また生徒の肯定的回答率は昨年度に比べ、進度については8.6ポイント、理解度については2.0ポイント上昇し、改善傾向にあると考える。しかし、保護者の肯定的回答率は昨年度よりも0.8ポイント下降した。
					生 ⑩	授業の進度は、概ね適切である。	83.3%	16.1%	0.7%		
		生 ⑪	③指導方法の工夫を図り、授業改善を一層進めることで、生徒の学習意欲を高める。	③職員、生徒、保護者による授業評価アンケートの結果及び研究授業や研修会等の実施状況	生 ⑪	私は、授業の内容を理解できている。	82.5%	17.2%	0.3%		③ 職員の肯定的回答率は、昨年度よりもさらに1.9ポイント上昇し96.6%となり非常に高い。また生徒の肯定的回答率も昨年度よりも3.8ポイント上昇した。職員は授業アンケートを通して、授業改善に努めていることが分かる。しかし、本来であれば年2回の公開授業や他校からの視察等に合わせた授業公開を授業改善に役立てていたが、今年度は感染症の影響により開催できなかった。
					保 ⑫	私の子供は、概ね授業の内容を理解している。	80.4%	15.8%	3.8%		
		保 ⑬			職 ⑬	指導方法の工夫を図り、授業改善を一層進めることで、生徒の学習意欲を高める。	96.6%	1.7%	1.7%		
					生 ⑭	先生は、生徒の知的好奇心を満足させるとともに、学習意欲の高まるような授業をしている。	83.4%	16.5%	0.2%		
保 ⑮			保 ⑮	私の子供は、授業において知的好奇心が刺激されているようだ。	82.9%	12.7%	4.4%				

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	学校評価アンケートにおける該当質問項目 (職は職員アンケート、保は保護者アンケート、生は生徒アンケート)			アンケート回答率			自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
				肯定的回答	否定的回答	わからない等	肯定的回答	否定的回答	わからない等		
生徒指導	自主自律の精神を育成し、他者へ配慮する心と態度を身に付けさせるとともに、生徒理解に努め、組織的な対応ができる生徒指導体制を構築する。	①集団の一員としての自覚と責任感を持たせ、自他を尊重する態度の育成を図る。	①職員、生徒、保護者によるアンケートの結果	職 ⑧ 集団の一員としての自覚と責任感を持たせ、自他を尊重する態度の育成を図る。	84.8%	13.6%	1.7%	① 職員の肯定的回答率は昨年度より2.3ポイント上昇したが、生徒の肯定的回答率は昨年度より2.9ポイント下降した。保護者の肯定的回答率は、他者への思いやりが0.6ポイント上昇しているものの、自主自律については3.2ポイントの下降がみられる。職員の指導の思い(考え方)と生徒・保護者の指導の捉え方の乖離が生じている。また、職員の記述回答の中には、生活指導の不十分さを危惧する声も散見する。	① 職員の共通意識(共通認識)をより高めることが重要である。同時に、保護者へ指導のねらいを示し、指導の在り方を周知徹底する。その上で生徒の変化に対応した、個別指導を行う。		
		②家庭・地域の教育力を活用し、道徳教育の充実を図る。	②職員、生徒、保護者、地域の意見及び地域交流活動・道徳教育等の実施状況	職 ⑨ 家庭・地域の教育力を活用し、道徳教育の充実を図る。	66.1%	28.8%	5.1%	② 高校1年生の道徳を学ぶ時間に、地域の方と「学校は地域への情報発信をどのように行えばよいのか」をテーマにパネルディスカッションを行った。生徒の肯定的回答率は昨年度より6.2ポイント上昇したが50%前半であり、依然として低い。さらに職員の肯定的回答率は7.6ポイント下降し、改善の余地は十分にある。			
		③確かな生徒理解と教育相談を重視した生徒指導に努める。	③実態調査の回数及び実施状況	職 ⑩ 確かな生徒理解と教育相談を重視した生徒指導に努める。	88.2%	11.9%	0.0%	③ 生徒の実態を把握するために、定例の調査等を実施し、生徒の実態把握に努めた。生徒の問題については担任・養護教諭・スクールカウンセラー・教頭が連携し、適切に対応した。その結果、職員の肯定的回答率は昨年度より7.5ポイント上昇し、88.2%となった。また学校生活に満足している生徒は88.8%であり、依然として高い。			
		④健康で安全・安心な生活を主体的に実践する能力と態度を育成する。	④個人面談の実施状況及びスクールカウンセラーの利用状況	職 ⑪ 健康で安全・安心な生活を主体的に実践する能力と態度を育成する。	93.3%	6.8%	0.0%	④ 各担任の計画において年間2回の個人面談を実施し、学習指導をはじめ生徒指導や進路指導に役立てている。またスクールカウンセラーの利用件数は1学期(6/1～7/22)が17件、2学期が27件の計44件であり、生徒の諸問題に対応した結果、職員の肯定的回答率は昨年度より14.3ポイント上昇し、93.3%となった。			
		⑤私は、学校生活に満足している。	⑤私は、学校生活に満足している。	生 ⑫ 私は、学校生活に満足している。	88.8%	10.4%	0.8%				
キャリア教育	生徒が社会において自己の能力を活かせるよう、自己の在り方・生き方を考える態度を育成するとともに、ガイダンスや相談活動等を充実させ、個に応じた進路指導を効果的に進める。	①生徒が自己の将来を設計し、主体的に進路を選択できるよう、組織的に支援する。	①職員、生徒、保護者によるアンケートの結果及び進路指導の実施状況	職 ⑫ 生徒が自己の将来を設計し、主体的に進路を選択できるよう、組織的に支援する。	81.4%	15.3%	3.4%	① 感染症の影響により、計画的に進路行事を実施できなかった。その結果、職員の肯定的回答率は昨年度より4.5ポイント下降し81.4%となった。しかしながら、昨年度に比べ、生徒の肯定的回答率は1.3ポイント、保護者の肯定的回答率は2.6ポイント上昇しており、この状況下でも的確な指導が行われていると評価していただいたと考える。	① 個々の相談に的確に応じ、生徒が主体的に進路を選択できるような指導の在り方を考える。また、進路指導に係る研修を充実させ、職員の指導力を一層向上させる。		
		②進路に関する情報発信をより積極的に行い、家庭との連携を図り、進路指導を一層充実させる。	②保護者によるアンケートの結果及び情報提供の内容と実施回数	職 ⑬ 進路に関する情報発信をより積極的に行い、家庭との連携を図り、進路指導を一層充実させる。	81.4%	16.9%	1.7%	② 感染症の影響により、進路に関する情報を予定通り発信できなかった。保護者対象の説明会は1・2年生のみで実施し、3年生は保護者面談で対応することとなった。また、各学年の実態に即した進路情報を伝える「進路だより」は、学期末ごとの発行予定がずれてしまった。このような状況下においても、生徒の肯定的回答率は昨年度より4.1ポイント上昇したことは、姿勢を評価されていると考える。しかし保護者の肯定的回答率は昨年度よりも2.8ポイント下降した。			
		③社会人講演会・卒業生講演会・インターンシップ等を充実させ、勤労観・職業観の育成を図る。	③各種講演会の実施回数、参加人数及び実施状況	職 ⑭ 社会人講演会・卒業生講演会・インターンシップ等を充実させ、勤労観・職業観の育成を図る。	64.4%	27.1%	8.5%	③ 年間計画されていた、1年生対象の卒業生による「学部学科説明会」、2年生対象の「職業別講演会」や「大学教授の講話」、希望者対象の「医師による講演会」「卒業生による講話」等は、感染症の影響によりすべて実施できなかった。また、インターンシップも実施できなかった。そのため職員の肯定的回答率は昨年度より23.3ポイント下降し、64.4%であった。			
		④私は、学校生活に満足している。	④私は、学校生活に満足している。	保 ⑮ 私は、学校生活に満足している。	80.0%	13.6%	6.4%				
		⑤私は、学校生活に満足している。	⑤私は、学校生活に満足している。	生 ⑯ 私は、学校生活に満足している。	76.1%	23.7%	0.2%				
特色ある活動	千葉高ノーベル賞を充実させる。	生徒個々にテーマと研究方法を設定させ、グループ活動や個別指導等を通して、継続的に学習支援を行う。	生徒の活動状況及び研究に対する評価、全体発表等の成果	(この欄は空白)			総合学習の成果として、「人文科学」「社会科学」「自然科学」「スポーツ・芸術」の各分野の最優秀者一名ずつに、千葉高ノーベル賞を授与した。賞に漏れた生徒の発表も、十分に研究の成果が発揮されたものであると判断できた。	学習時間が確保できるように年間計画を策定する。また学習過程が一層充実するよう工夫し、個々の学習課題に対応した指導や学習支援を的確に行えるようにする。さらに、優秀作品として推薦できる作品を増やす。			